

所 報

INSTITUTE OF BUSINESS RESEARCH
COLLEGE OF ECONOMICS
NIHON UNIVERSITY

No.81

展 望

日本大学経済学部産業経営研究所では、2017年度の全体テーマに、「社会構造の変化と産業経営」を掲げ、このテーマに基づいて様々な活動を行ってきた。今回の所報においても、その研究成果が二つ示されている。

一つ目は、本学の大場允晶教授を中心としたグループ研究で、テーマは「ビッグデータ時代のポストERP／SCM 化法の研究」である。この研究は、情報技術の飛躍的發展によるビッグデータの活用とサプライ・チェーン・マネジメントの目的の変化を背景とし、企業の経営行動を Enterprise Modelingなどをベースに表現し、製造業のERP、SCMの内容を包含する経営工学の科学的・工学的な業績評価指標の研究開発をしようとするのが目的の一つである。また、複雑化する製造環境に対応した戦略的なビジネス技術をポストERP／SCMに役立つ技術として再構築し、ポストERP／SCMにおける現状、要件や課題について検討するとともに、プロセスモデルとデータモデルのサンドイッチ（プロGRESS・マトリクス）として活用する新しいロジックを提供することで、一般企業への応用発展の基礎を得ようとした取り組みに注目すべきであろう。このグループ研究では、様々な研究成果が発表されている。

二つ目は、京都大学経済学研究科・梶山泰生教授の「新規事業創造と起業エコシステム」と題した講演録である。この講演では、新規事業はどのように創造されるのか、という内容から、起業エコシステムとは何か、さらには、企業はどのようにして起業エコシステムを活用できるのかなどについて、世界最先端のスタートアップの実体調査に基づいてご紹介いただいた。講演内容から、次の3点の示唆が提示されている。1点目は、新規事業の創造は、単なる技術革新や発明ではなく、試行錯誤を伴う「ビジネスモデル」を開発するプロセスである。2点目は、新規事業の創造は「起業エコシステム」が支えており、その支援の仕組みは多様なプレイヤーが複数の役割を担う形で「制度化」されてきている。3点目は、企業が外部の起業エコシステムを活用する場合、起業エコシステムを構成するコミュニティに埋め込められた存在になるのが難しいが、企業「内部」の戦略・組織のマネジメントによって改善できる。これらの研究成果は、ベンチャー企業の創造および企業内新規事業創造に興味深い示唆を与えている。

（産業経営研究所 孫 徳峰）